

旭川市立愛宕中学校 学校だより

清新愛宕

NO.9 令和6年12月号

校訓 ～やる気 本気 根気～



Only One ! 「自分色の花を咲かせよう」

校長 濱 中 昌 志

この4月、桜の話題からスタートした学校通信「清新愛宕」ですが、桜が散った後には、濃い緑色の葉っぱをたくさん付け、学び舎の窓から見える木々たちは、何時も子どもたちに活力を届けてくれていました。そんな木々も、今はすっかり葉を落としてしまい、冬枯れの枝に雪が積もっています。

しかし、よく見てみると春にきれいな花を咲かせるためのつぼみを枝に付けています。

一見、枯れた枝のように見えていても、樹木は自然の摂理に従って、「着実に変化しているのだな」と、改めて感心したところです。

他の木々を見ても今は葉っぱのない小枝ばかりが目につきますが、その小枝の一本一本は、この厳しい冬の季節にあっても、すでに来年の春の芽吹き準備を着実に始めています。

少々古い話になりますが、2000年に開催されたシドニーオリンピックで、日本人初の女子マラソン金メダリストになった、高橋尚子選手は監督に「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、いつか大きな花が咲く」の詩を教えてもらいました。高橋選手はこの詩を練習後に自分に言い聞かせ、苦しい練習に耐え、世界一という栄冠を手に入れました。

私がこのエピソードを知った当時は、春にきれいな花を咲かせるために、寒い冬にじっと絶えながらも、しっかりと花を咲かせるための準備をしている、この時期の桜と似ているなあと感じたものでした。

我が愛宕中生も、今、この枝のように学習でも運動でも、こつこつと地道な取り組みを積み重ね、素晴らしい花を咲かせるために、次の学期、次のステップに向け、着実な準備を進めています。来春には、自分にしか咲かせることのできない、素敵な自分色の花を咲かせてほしいと心から願っております。今年の年末年始は寒さも厳しくなりそうです。

穏やかに新年を迎えることが出来るよう、心より祈っております。

愛宕中生の皆さんへ「何苦礎」

受験生、そして冬休み中に愛宕中を代表して部活動での大会に参加する皆さん、さらには、この年末年始で力を蓄え立派に成長しようとする全愛宕中生！

「何苦礎」この漢字は、なんと読むでしょうか？「なにくそ」と読むそうです。

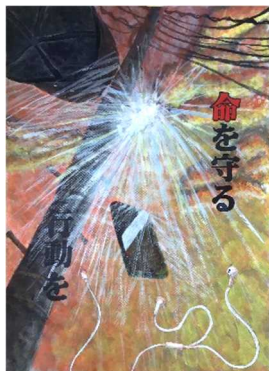
もちろん、こんな漢字はありません。これはあるプロ野球選手がつくった造語だそうです。その選手は既に引退しています。日本では「オリックス」、メジャーでは、当時「カーディナルズ」で活躍した選手。この選手は、順風満帆にプロ野球人生を歩んできたわけではなく、オリックス球団にドラフト1位で入団したにもかかわらず、同じ年のドラフト4位で入団した「イチロー選手」に脚光を奪われてしまいます。そんな選手がメジャーに挑戦したとき、誰もが「無理だろう」と思ったそうです。案の定、開幕を待たずにマイナーに落ちてしまい、厳しい環境に身を置くことになりました。

しかし、地道な努力を続け36歳で見事、当時、日本人では誰もなしえなかったワールドチャンピオンの称号を手にしたのです。

さて、この「何苦礎（なにくそ）」ですが、この選手が日々の厳しい練習に耐えていたマイナー時代に、思いついた言葉だそうです。「何でも苦労が基礎になる」という意味。

苦労に負けずに、「なにくそ」と頑張ることも素敵ですが「苦労が基礎となる」と考える「謙虚な姿勢」がとても立派だと感じました。この「謙虚さ」が後の大きなタイトルをもたらしたのかもしれないと思っています。いよいよ冬休みに入ります。新たな年を迎えるにあたって、3年生は進路に向かっての準備を、2年生は本校の最上級生となるための準備を、1年生は新入生にとってよき先輩となるための準備を、それぞれ目標は異なりますが、是非ともこの「なにくそ」（何でも苦労が基礎となる）の精神で、一人一人がこの冬休みに努力して欲しいと思っています。

★令和6年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール



佳作
入江光輝さん(3-3)



佳作
牧野一葉さん(2-3)

★第29回小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト



優良賞
高橋来乃未さん(2-1)



佳作
矢動丸友希乃さん(1-2)

人権作文コンテスト

12月7日(土)第43回全国中学生人権作文コンテスト旭川地方大会の表彰式が旭川市市民活動交流センターCoCoDeで行われました。

本校からは、越後実結菜さん(1-3)の「思いやりと人権」の作文が優秀賞(北海道知事賞)を受賞し、表彰されました。また、得能杏花さん(1-2)の「多様な性のふうふ」の作文が優良賞(旭川人権擁護委員協議会賞)を受賞しました。

このコンテストは、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として毎年開催されています。

第74回“社会を明るくする運動”作文コンテストでは、中山千碧さん(2-3)の「『あたりまえ』を見つめ直して」の作文が優秀賞を受賞しました。

★令和6年度「宇宙の日」全国小・中学生作文絵画コンテスト絵画部門



最優秀賞
中嶋ゆいさん(2-3)



優秀賞
神田紗良さん(2-1)



佳作
星見那奈さん(2-1)



努力賞
石田そらさん(2-3)